

平成 30 年 2 月 22 日掲載

<子供たちに税の使途について考える機会を提供した好事例>

税の作文を活用した租税教育活動

今治法人会（愛媛）

<活動対象> 小学校 6 年生の児童及び中学生

<活動の概要>

●租税教室での取組み

- ・小学生を対象に、国の公債残高を将来の税であるとして、家計にたとえて国の借金の仕組みと現状を説明。
- ・中学生を対象に、社会保障と税の問題をディベート方式で議論。日本が目指すべきは「高福祉・高負担か低福祉・低負担か」をテーマ。

●税に関する作文

- ・小学生に夏休みの課題として税の作文に取り組んでもらった。青年部主催の親子タックスセミナーでは「中学生の税の作文」の朗読発表も実施。毎年継続して実施しており、平成29年度時点で作文集を第10号まで発行、平成29年の作文応募は923通を数えた。

<参考資料>

租税教育プレゼン資料

<摘要>

特になし

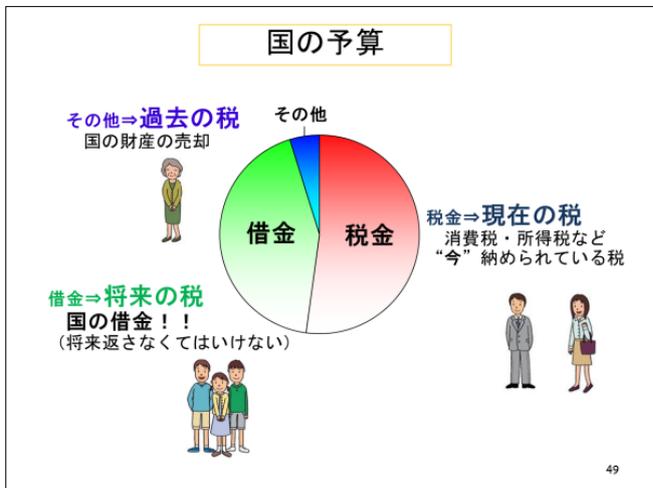
<出典>

平成 26 年度租税教育活動プレゼンテーション（秋田大会）より

1. 今治法人会の租税教室・・・国の予算をみてみよう！！

小学校では

- ・国の予算である公債を将来の税として説明（租税法入門 大蔵財務協会発行）



借金の部分を、将来の税として説明した。

借金（公債発行）を自分たちが大人になったときに納める税金で返済する仕組みを説明。

- ・家計にたとえた国の予算の説明

国の財政を月収30万円の家計にたとえると、1か月当たり**23万円**の借金をして毎月の家計を成り立たせていることになり、5,143万円のローンを抱えていることになります。

1か月分の家計にたとえた場合	平成26年度一般会計予算
<収入>月収 30万円 (年収 360万円)	<収入> 税金+税外収入 54.6兆円
<支出>総額 53万円 家計費 40万円 (うち仕送り 9万円) ローン元利払13万円	<支出>一般会計歳出 95.9兆円 基礎的財政収支対象経費72.6兆円 (うち地方交付税16.1兆円) 国債費 23.3兆円
不足分=借金 23万円	公債金収入=借金 41.3兆円
ローン残高 5,143万円	公債残高 780兆円

こうした借金が累積して、年度末には・・・

私たちの生活が現在の収入だけではまかないきれっていない現状を説明。

国の予算について不足分を借金で補いその残高が増えていることをインターネットやテレビニュースなどで知っている児童も多い。

小学生の税の作文にも数多く書かれている。

中学校ではディベート方式の授業で税と社会福祉の問題を議論。



担当教師の希望もいれ、討論方式の授業を実施。

5クラス200人の生徒・青年部会・女性部会の進行役10人で熱心な議論。テーマは「高福祉・高負担か低福祉・低負担か」。

初参加の部員も含め多くの青年部会員が参加することによって実現した。

2. 小学生の税に関する作文集 発行・・・第6号を発行

管内小学校の教員全員・入選者の家族・今治法人会会員企業などに配布。(3500部)

- ①写真(本人・学校の写真)は全員同じ大きさと掲載。撮影は担当教師同席にて法人会事務局スタッフが撮影。
- ②作文審査は行政・関連団体・法人会のメンバーで661通の中から80通の作文を審査。
- ③本年度より新しく今治市長賞などを設け青年部発案の「税の作文表彰式」で授与した。



この作文集は本大会のブースにて配布しております。参考のためぜひ お持ち帰りください。

目次	1
「ついでに」	2
心学投稿者	3
心学投稿者	4
心学投稿者	5
心学投稿者	6
心学投稿者	7
心学投稿者	8
心学投稿者	9
心学投稿者	10
心学投稿者	11
心学投稿者	12
心学投稿者	13
心学投稿者	14
心学投稿者	15
心学投稿者	16
心学投稿者	17
心学投稿者	18
心学投稿者	19
心学投稿者	20
心学投稿者	21
心学投稿者	22
心学投稿者	23
心学投稿者	24
心学投稿者	25
心学投稿者	26
心学投稿者	27
心学投稿者	28
心学投稿者	29
心学投稿者	30
心学投稿者	31
心学投稿者	32
心学投稿者	33
心学投稿者	34
心学投稿者	35
心学投稿者	36
心学投稿者	37
心学投稿者	38
心学投稿者	39
心学投稿者	40

今治法人会会長賞

くらしを支える税金
日高小学校 六年 田坂優真

「母さん、消費税上がったから小さいあけてくれる？」
弟のこの言葉をきっかけに家族で税金について話し合った。インターネットで調べると、消費税以外にも所得税・酒税・自動車税などいろいろな種類の税金があることが分かった。なのにどうして足りなくなるんだらう。不思議に思った。は、今度は税金の使われ方を調べてみた。すると、普段あたり前に使っている道路や公園、いざという時の消防や救急、学校の図書費、無いと困るごみ処理場など町のあらゆる場所で税金が使われていることが分かった。どれもぼくたちの生活に必要な物ばかりだった。
「他にも、年をとったり事情があつて働けなくなつたりした人の生活を支えることや、災害復興などにも税金が使われているんだよ。」
と父が教えてくれた。
つまり税金のおかげでぼくたちは便利で安心な生活がとれているという訳だ。税金はよりよい町づくりのエネルギーのようなものだ。ぼくは思った。エネルギーがなければ、町は動かなくなってしまう